ゆずりはの森から

第194号

2019年11月10日発行

NPO法人
ゆずりは学園

小学生

中学生

高校生

大学生

社会人

ゆずりはの樹に想いを寄せて

自宅で始めたフリースクールでした。学校現場が荒れていて、落ち着いて授業が出来ない校内暴力があちらこちらの中学校で起こるようになった時代でした。せっかく学校に来ても、校内に入れなく帰される生徒、忍び込むように校内に入る生徒。だからこそ、香港の青年たちのように、若い人たちの理不尽な社会への心からの反発としての動きはこの地方でも約4年間ほど続いたでしょうか。今は、逆に小学校や保育園の幼い子ども達に先生が手をあげる、考えられないことが起きています。人権が守られていないと感じるこのごろです。

第13回よみうり子育て応援団大賞をいただきました。新聞発表に「不登校 学びに寄り添う」の言葉がありました。

私は「寄り添う」の言葉が好きです。無理に引っ張るのはいけません。その人の心に添って、じっと傍にいるのが大切です。

新聞の写真場所は、ゆずりはの森の中です。ゆずりはの森には、多くの「譲り葉」の樹が自生しています。学園を訪問される人々が「なぜゆずりは学園と名付けたのですか」と聞かれることが多いです。この「ゆずりは」は、小さな葉を大きな葉が雨、風から守り、十分に大きくなったら、静かに根本に落ち、今度は根の養分になって、その木を支え、いつまでも寄り添っています。

母が子どもを見守り、十分に育って社会に出て行ったら、静かに見守り代を譲る樹が私達が想うことと同じでしたから、こう名付けました。

授賞式には、この学園を卒業して、名古屋大学に進学。社会に出て行って、今は外から私たちの活動を支えてくれている卒業生と、大阪の晴れの式に出かけます。

今年1月、彼の結婚式に参加しました。私は彼とのつながりを「不登校」の言葉には出さないように祝辞を述べました。でも、彼が式の最後に出席者全員に「最後に私から話したいことがあります。僕は中学時代、不登校でした。学校に行けなくなって、家にいるようになって、もう自分の人生は終わったと思いました。沓名先生に出会わなかったら、今の今日の自分はなかったです」と、涙で言葉がつまりながら、言ってくれた時の感動は深く言葉には表せない瞬間でした。

子どもの成長が何よりうれしい。生徒の笑顔が何よりうれしい。泣いている子ども達、苦しんで死にたいと言う青年や生徒が笑顔で明るく自分の道を進んでいく姿を見るのが何よりうれしい。

時には警察、少年鑑別所、少年院などの問題も起きますが、受賞の感謝とこれを大きな励みとして、子ども達、青年、その家族に向き合い、社会へと自立するまで寄り添うゆずりは学園でありたいと思います。

読売新聞（10月29日）

不登校 学びに寄り添う

大賞

NPO法人ゆずりは学園（愛知県田原市）

第13回よみうり子育て応援団大賞

森の教室で勉強する生徒を優しく見守る沓名さん夫婦（愛知県田原市で）＝一橋撮影

教師の自殺 この5年間（毎年）100名以上

この報告を見て、深い悲しみを覚えます。

私がまだ現場にいて、斉藤喜博先生の教授学を学び、授業の研究をしていたころでした。研究授業参観に行って、とても感動的な授業をされていた先生が、その後入水自殺をされたとのニュースを聞いた時、大きなショックを覚えました。あの授業なら、きっと生徒たちもすごく理解できて、素晴らしい先生だったはずなのに、同僚の先生方からのいろいろな言葉で悩まれていたとのことです。

また福岡県の先生は、生徒が他の先生方に砂浜に連れて行かれ、首だけ砂の上に出し、スコップで埋められた事件を「こんな指導はない」と外部に漏らしたかのごとく責められ、裁判にも負け、ご自分の体の変調にも気を使う時間もなく、亡くなられた事件では、その後ご主人から「私もフリースクールを始めました」と連絡がありました。

教師の自殺は、もう長い間、ずっと続いていたのです。

私自身も、44対1のあの時、「なぜ5日間も続いた授業参観の保護者のアンケートには、多くの賞賛の意見ばかりで、先生や学校の問題を訴えた意見がつもないのですか？私はもう今日の職員会が最後です。事実を教えて下さい」と言った時、「沓名先生は強いです。他の先生方にあのような保護者の意見を見せたら、みんな明日から登校拒否になります。だから私がアンケートはすべて廃棄しました」と答えが返ってきました。三役の先生の意見だとか。

「沓名先生がいると、組織の邪魔になる。沓名先生がいると警察が呼べない」と言われて退職した、2001年3月の職員会。

昨日のことは、少しずつ認知症の傾向で、忘れがちなのに、その時のことは不思議なもので、まるで最近のことのように覚えています。44人の教師対私1人。誰も味方になってはくれない悲しさ。そして、生徒が暴れるのは「沓名先生が扇動している」とまで言われたあの頃。確かに強くなければ、自殺していたかもしれませんね。

強かったのかなあ。私はただ生徒が好きだし、授業が好きだっただけですが。

先生方が自殺する、子ども達が自殺する、このような悲しい事件があってはならないのです。

お知らせ

発達障害親の会 **ゆず茶**（204回）

○日時／11月15日(金) ※奇数月第3金曜日
PM1:30～3:00

○場所／田原市中央図書館

発達障害対応マニュアル本「異空間のドアを開けて」1,500円 販売中

お問い合せ・連絡先

ゆずりは学園事務局

〒441-3421 田原市田原町池の原15-3

TEL:0531(22)3515 FAX:0531(22)7761

e-mail:kutsuna_ike@yahoo.co.jp

http://www.yuzuriha-gakuen.com/

http://ameblo.jp/yuzurihaschool/

http://ameblo.jp/kutsuna-diary/

募集 NPO法人 ゆずりは学園 **会員希望者**

●賛助会員／年会費2,000円

●正 会 員／年会費5,000円

●寄　　付／自由

銀行

三菱東京UFJ銀行（普）田原支店

□座名義／ゆずりは学園　理事　沓名智彦

□座番号／3627714

郵便局

□座名義／特定非営利活動法人
ゆずりは学園

□座番号／00870-6-136039

お便りを郵送します。お名前・ご住所をご連絡ください。